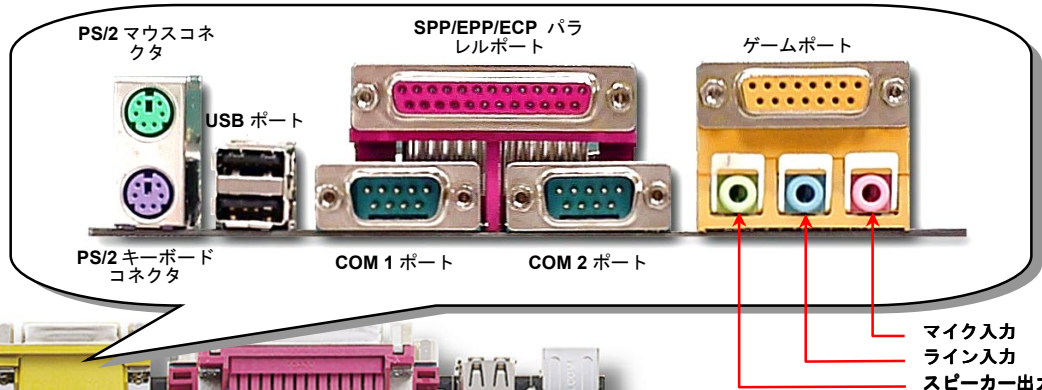


AX37D Plus

AX37D Pro

イージーインストールガイド



CD 入力コネクタ
Onboard AC97 CODEC
JP30 ダイハート BIOS 設定ジャンパー
ダイハート BIOS によるウィルス防止
100% (アップグレードオプション)

緑: AUX 入力コネクタ
赤: モデム入力コネクタ

CNR 拡張スロット
32 ビット PCI 拡張スロット 6 個

第 2・第 3 USB ポートコネクタ
Dr. LED コネクタ

WOM (ウェイクオンモデム)コネクタ
WOL (ウェイクオン LAN)コネクタ
IrDA コネクタ
筐体ファンコネクタ (ハード
ウェアモニタ機能つき)

フロントオーディオコネクタ
PROMISE® FastTrak 100™ Lite IDE RAID
コントローラ (AX37D Plus のみ)

フロントパネルコネクタ
JP35 IDE RAID コントローラ
オン・オフジャンパー

システムおよび RAM 電源表示 LED
CMOS データクリア用ジャンパー

ケース開放センサコネクタ

リセットブルヒューズ

キーボード/マウスウェイク
アップ設定ジャンパー

2200 μ F 低漏洩コンデンサ

ATX 電源コネクタ

外部ファンコネクタ

AGP 4x 拡張スロット

370 ピン CPU ソケット、クロック/
電圧自動検出機能付きで、
Intel® Pentium® III および
Celeron™ 533MHz~1GHz+を
サポート

VIA® Apollo Pro266 チップセッ
ト、純アルミ製ヒートシンク付き

CPU ファンコネクタ (ハー
ドウェアモニタ機能つき)

184 ピン DDR SDRAM スロッ
ト 2 個で最大 2GB 搭載可能

168 ピン DIMM スロット 2 個で
PC100/PC133 SDRAM が
最大 2GB 搭載可能

JP23 FSB 設定ジャンパー

ATA/33/66/100 IDE コネクタ 2 個

ATA/100 IDE RAID コネクタ 2 個
(AX37D Plus のみ)

FDD コネクタ

インストールの準備



このマザーボードをインストールするのに必要な情報は全てこのイーージーインストールガイドに載せられています。更に詳細な内容については**オンラインユーザーズマニュアル**が **Bonus Pack CD ディスク**に付属しています。地球の環境保護へのご協力に感謝いたします。

付属品チェックリスト

- ✓ ハードディスクドライブIDE ケーブル1本
- ✓ 80 芯線IDE ケーブル1本
- ✓ フロッピードライブケーブル1本
- ✓ 第2 USB ケーブル1本 (AX37D Plus のみ)
- ✓ DDR ターミネータ1個
- ✓ Bonus Pack CD ディスク1枚
- ✓ Norton Anti-Virus CD 1枚
- ✓ オンラインマニュアル一式
- ✓ 当イーージーインストールガイド一式

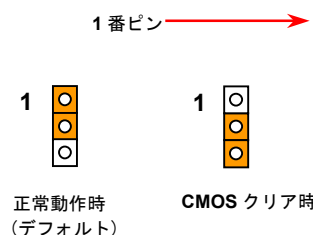
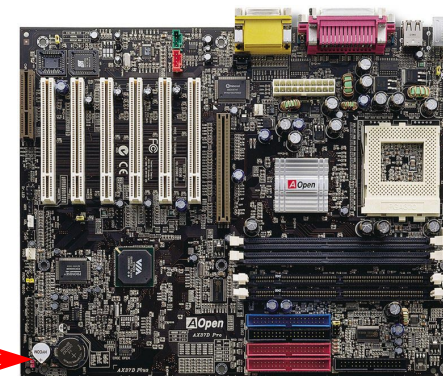
PART NO: 49.89902.031

DOC. NO: AX37DP-EG-J0104A

1. JP14 によるCMOS クリア

CMOS をクリアすると、システムをデフォルト設定値に戻せます。以下の方法で CMOS をクリアします。

1. システムをオフにし、AC コードを抜きます。
2. コネクタ PWR2 から ATX 電源ケーブルを外します。
3. JP14 の位置を確認し、2-3 番ピンを数秒間ショートさせます。
4. JP14 を通常動作時の 1-2 ピン接続に戻します。
5. ATX 電源ケーブルをコネクタ PWR2 に差します。



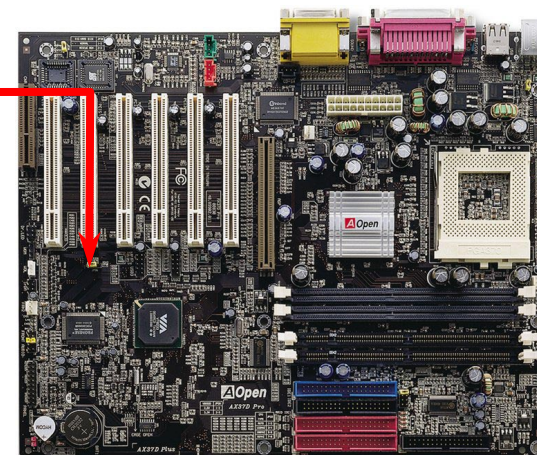
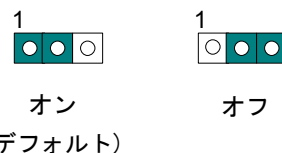
ヒント：CMOS クリアはどんな時に必要？

1. オーバークロック時の起動失敗...
2. パスワードを忘れた...
3. トラブルシューティング...

2. JP35 によるオンボードIDE RAID コントローラのオン・オフ

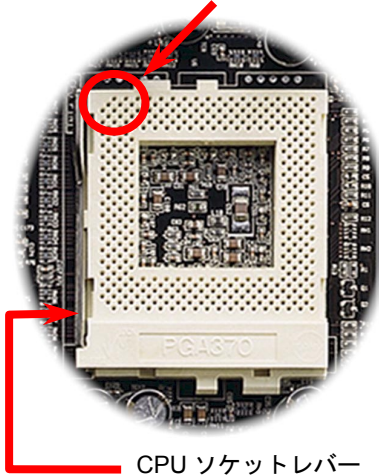
JP35 はオンボードの PROMISE® FastTrak 100 Lite IDE RAID コントローラのオン・オフに使用します。このコントローラをオフにする場合は、先ずシステム電源を切り JP35 の 2 番ピンと 3 番ピンをジャンパーでショートさせます。

1 番ピン →



3. CPU のインストール

CPU 1 番ピンおよび面取り部



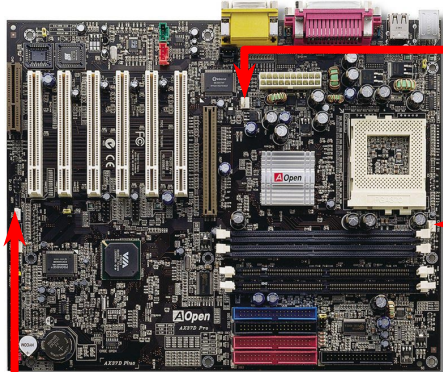
1. CPU ソケットレバーを 90 度引き起こします。
2. ソケットの 1 番ピンの位置および CPU 上部の (金色の) 面取り部を確かめます。1 番ピンおよび面取り部を合わせます。この方向で CPU をソケットに差しします。
3. CPU ソケットレバーを水平に戻すと、CPU のインストールは完了です。

ご注意： CPUソケットの1番ピンとCPUの面取り部を合わせないと、CPUに損傷を与えます。

CPU ソケットレバー

4. CPU および筐体ファンのインストール

CPU ファンのケーブルは 3-ピンの **CPU FAN** コネクタに差しします。筐体ファンを使用される場合は、ケーブルを **FAN2** または **FAN3** (ハードウェアモニタ機能なし)コネクタに差しします。



Fan3 コネクタ

CPU ファンコネクタ

GND
+12V
Sensor

GND
+12V
Sensor

メモ： CPU ファンによってはセンサ
用ピンがないものもあります。この場
合、ファンのモニタ機能は使用できま
せん。

5. CPU 電圧およびクロックの設定

CPU コア電圧の設定

このマザーボードは CPU VID 機能をサポートしています。CPU コア電圧は 1.3V~3.5V の範囲で自動検出されます。CPU コア電圧を調節する必要はありません。

CPU クロックの設定

このマザーボードは CPU ジャンパーレス設計なので、CPU クロックは BIOS セットアップから設定可能で、ジャンパースイッチ類は不要です。

BIOS Setup > Frequency / Voltage Control > CPU Speed Setup

コアクロック = CPU FSB クロック * CPU レシオ

CPU レシオ	2x, 2.5x, 3x, 3.5x, 4x, 4.5x, 5x, 5.5x, 6x, 6.5x, 7x, 7.5x, 8x
CPU FSB (By BIOSの一覧)	66.8, 68.5, 75, 83.3, 100, 103, 112, 117, 124, 129, 133.3, 138, 143, 148, 150MHz.
CPU FSB (マニュアル設定)	66~248MHzの範囲で1MHzステップ調節機能使用可。

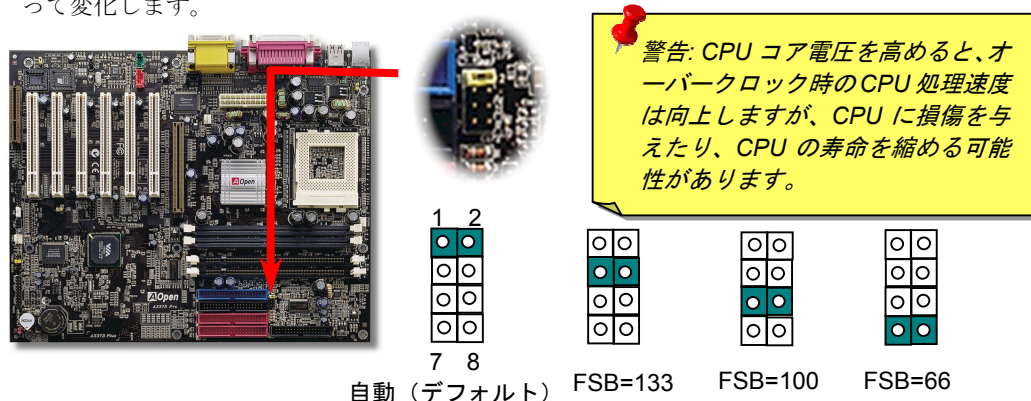
CPU	CPUコアクロック	FSBクロック	レシオ
Celeron 300A	300MHz	66MHz	4.5x
Celeron 366	366MHz	66MHz	5.5x
Celeron 366	366MHz	66MHz	5.5x
Celeron 400	400MHz	66MHz	6x
Celeron 433	433MHz	66MHz	6.5
Celeron 466	466MHz	66MHz	7x
Celeron 500	500MHz	66MHz	7.5x
Celeron 533	533MHz	66MHz	8x
Celeron 566	566MHz	66MHz	8.5x
Celeron 600	600MHz	66MHz	9x
Pentium III 600E	600MHz	100MHz	6x
Pentium III 650E	650MHz	100MHz	6.5x
Pentium III 700E	700MHz	100MHz	7x
Pentium III 750E	750MHz	100MHz	7.5
Pentium III 800E	800MHz	100MHz	8x
Pentium III 850E	850MHz	100MHz	8.5x
Pentium III 533EB	533MHz	133MHz	4x
Pentium III 600EB	600MHz	133MHz	4.5x
Pentium III 667EB	667MHz	133MHz	5x
Pentium III 733EB	733MHz	133MHz	5.5
Pentium III 800EB	800MHz	133MHz	6x
Pentium III 866EB	866MHz	133MHz	6.5
Pentium III 933EB	933MHz	133MHz	7x
Pentium III 1000EB	1GHz	133MHz	7.5x
Pentium III 1.13 G	1.13GHz	133MHz	8.5x

警告： VIA® Apollo Pro 266 チップセットは、最大 133MHz FSB および 66MHz AGP クロックをサポートしています。より高速のクロック設定はシステムに重大な損傷を与える可能性があります。

ヒント： オバークロックにより、システム起動に失敗してフリーズした場合は、<Home> キーを押すだけでデフォルト設定(433MHz)に戻りますし、5 秒待って AOpen “ウォッチドッグタイマー”がシステムをリセットしハードウェアが再度自動検出されるようにもできます。

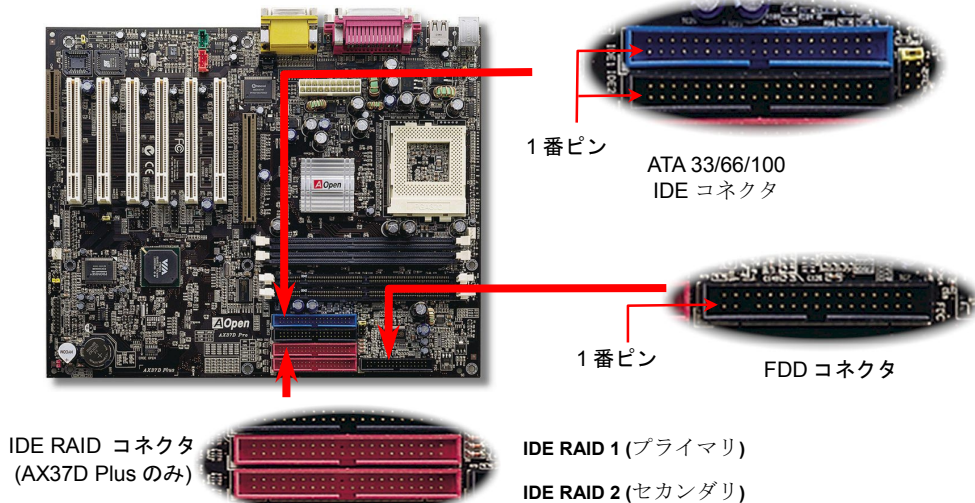
6. JP23 による FSB/PCI クロックレシオ設定

このジャンパースイッチにより、PCI および FSB クロックの関係を設定します。一般的には、オーバークロックを行うのでない限り、デフォルト設定のままにしておくことをお勧めします。ところでこのマザーボードは“1MHz 単位調節”機能をオーバークロック用に装備しています。これで CPU FSB クロックを BIOS セットアッププログラムから調節できます。CPU タイプ別に 3 つの調節範囲があります。： 66~90 (FSB=66MHz, Celeron™ 533 等), 100~127 (FSB=100, Pentium® III 800E 等), 133~248 (FSB=133, Pentium® III 800EB 等) MHz が設定できます。CPU FSB クロックを JP23 で設定すると、“1MHz 単位調節”範囲はその設定に従って変化します。



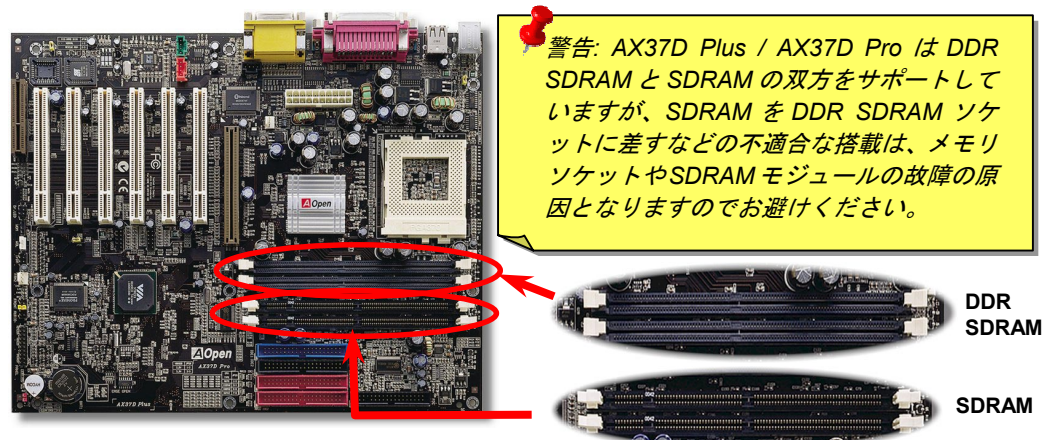
7. IDE, フロッピーおよび IDE RAID ケーブルの接続

34 ピンフロッピーケーブルおよび 40 ピン IDE ケーブルをフロッピーコネクタ FDC および IDE/IDE RAID (AX37D Plus のみ) コネクタに接続します。1 番ピンの向きにご注意ください。間違えるとシステムに支障を来す恐れがあります。



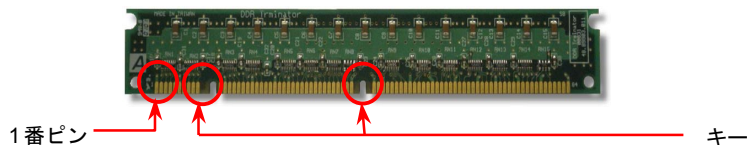
8. DIMM モジュールのインストール

当マザーボードにはDDR SDRAMインタフェースが採用されており、SDRAMとデータバッファ間で100または133MHzでのゼロウェイトモードバースト転送が可能です。2個の184ピンソケット、DDR SDRAM 4バンクには、1M/2M4M/8M/16M/32M/64Mを任意の個数組み合わせたDDR SDRAMが最大2GB搭載可能です。さらに当マザーボードには168ピンSDRAMソケットが増設されており、PC100またはPC133メモリが最大2 GB搭載できます。

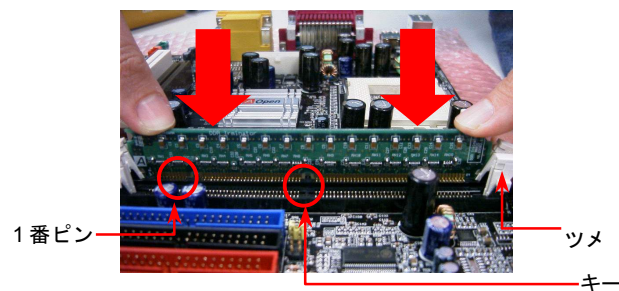


このマザーボードには、DDR SDRAM DIMMのデータがSDRAM DIMMに移行するのを防ぐDDRターミネータモジュールが付属しています。DDR SDRAMを使用する際にはDDRターミネータモジュールを差してください。使用されないと双方のSDRAMに損傷が生じます。

1. DIMMモジュールのピン側を下にし、下図のようにソケットを合わせます。



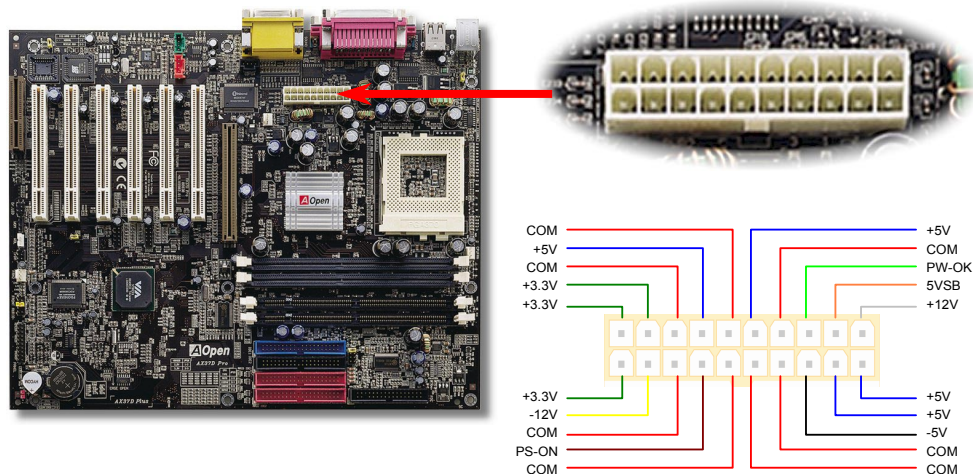
2. 1つ目のSDRAM DIMMソケットにモジュールを両手でまっすぐ下方にDIMMモジュールが止まるまで差し込みます。



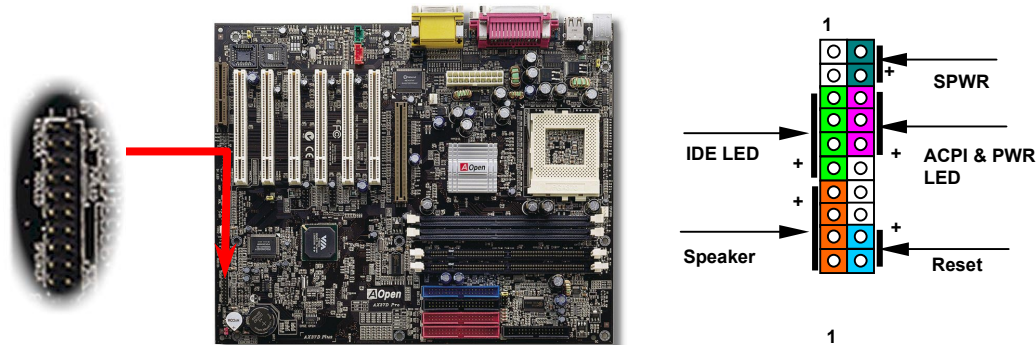
警告: DDR SDRAM に RAM モジュールをインストールした場合には必ず DDR ターミネータモジュールを差してください。一方、SDRAM モジュールを使用される場合はターミネータを外すのを忘れなく。

9. ATX 電源コネクタの接続

ATX 供給電源には下図のように 20 ピンのコネクタが使用されています。差し込む際は向きにご注意ください。



10. フロントパネルケーブルの接続



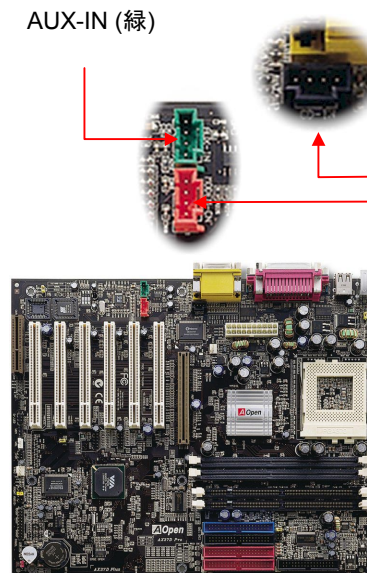
電源 LED、キーロック、スピーカー、リセットスイッチのコネクタをそれぞれ対応するピンに差しします。BIOS セットアップで“Suspend Mode”の項目をオンにした場合は、ACPI および電源の LED がサスペンドモード中に点滅します。

お持ちの ATX の筐体で電源スイッチのケーブルを確認します。これは前部パネルから出ている 2-ピンメスコネクタです。このコネクタを **SPWR** と記号の付いたソフトウェア電源スイッチコネクタに接続します。

1			
NC	○	●	SPWR
NC	○	●	GND
+5V	○	●	ACPI & PWR LED
IDE LED	○	●	GND
IDE LED	○	●	+5V
+5V	○	●	NC
+5V	○	●	NC
GND	○	●	GND
NC	○	●	RESET
SPEAKER	○	●	GND

11. CD / 補助入力/モデムの接続 (オプション)

AUX-IN (緑)



CD-IN コネクタは CDROM または DVD ドライブからの CD オーディオケーブルをオンボードサウンドに接続するのに使用します。

AUX_IN コネクタは MPEG カードからの MPEG オーディオケーブルをオンボードサウンドに接続するのに使用します。

Modem-CN コネクタは内蔵モデムカードからのモノラル入力/マイク出力ケーブルをオンボードサウンド回路に接続するのに用います。

CD_IN (黒)
MODEM-CN (赤)

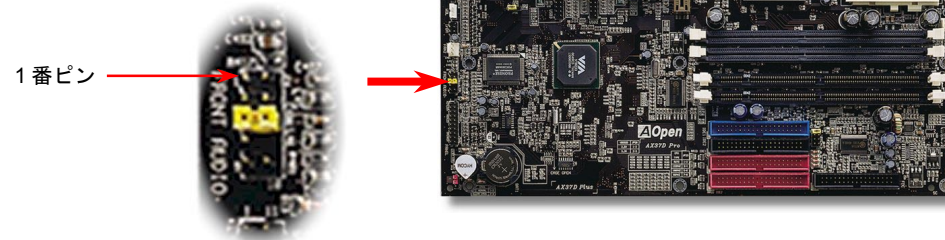
コネクタ	1 番ピン	2 番ピン	3 番ピン	4 番ピン
CD-IN	左	GND	GND	右
AUX_IN	左	GND	GND	右
Modem-CN	モノ入力	GND	GND	Mic 出力

12. フロントオーディオ(アップグレードオプション)

筐体のフロントパネルにオーディオポートが設定されている場合、オンボードオーディオからこのコネクタを通してフロントパネルに接続できます。なお、ケーブルを接続する前にフロントパネルオーディオコネクタからジャンパーキャップを外してください。フロントパネルにオーディオポートがない場合はこの黄色いキャップを外さないでください。

	1	2	
FP_MIC	○	●	GND
FP_VREF	○	●	+5V
PHONE_R	○	●	JS1
NC	○	●	KEY
PHONE_L	○	●	NC
	9	10	

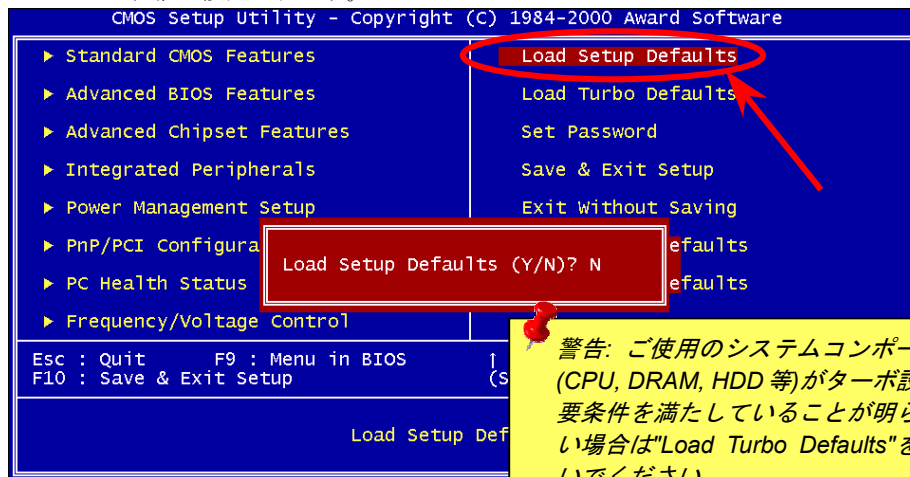
1 番ピン



13. 電源オンおよびBIOS セットアップのロード

Del

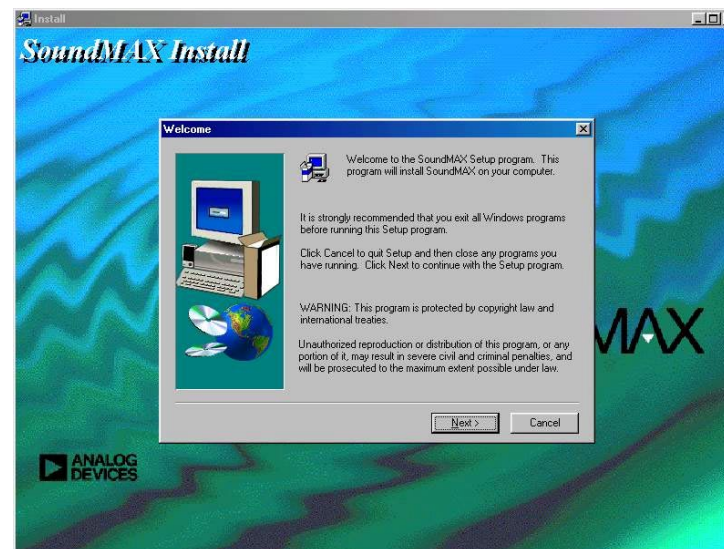
ジャンパー設定およびケーブルの接続を終了したら、電源をオンにし、BIOS セットアップに入ります。これには POST (電源オン時のセルフテスト) 中に キーを押します。"Load Setup Defaults" を選ぶと、推奨される最適な性能に設定されます。



警告: ご使用のシステムコンポーネント (CPU, DRAM, HDD 等) がターボ設定の必要条件を満たしていることが明らかでない場合は "Load Turbo Defaults" を選ばないでください。

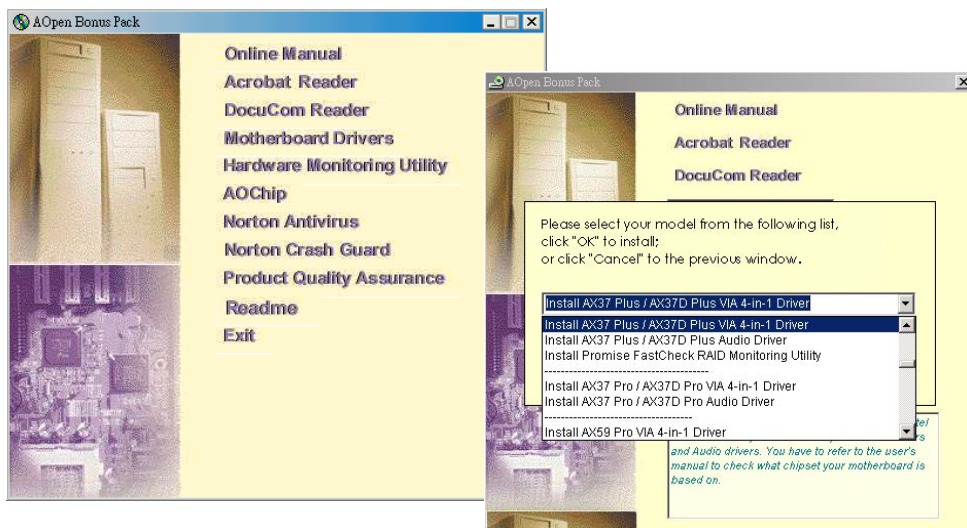
15. オンボードサウンドドライバのインストール

このマザーボードには AD 1885 AC97 サウンド CODEC が装備されています。オーディオドライバは Bonus Pack CD ディスクオートランメニューから見つけられます。



14. AOpen Bonus Pack CD

Bonus CD ディスクのオートランによるメニューが使用できます。必要なユーティリティを選び、ドライバ、型式名を指定します。



16. BIOS のアップグレード

「AOpen イージーフラッシュ」は従来のフラッシュ操作に比べ、よりユーザーフレンドリーな設計となっています。BIOS バイナリファイルとフラッシュルーチンが一緒になっているので、フラッシュ操作には 1 つのファイルを実行するだけで十分です。

1. AOpen のウェブサイトから最新の BIOS アップグレード zip ファイルをダウンロードします。例えば、AX37DP102.ZIP があります。
2. シェアウェアの PKUNZIP (<http://www.pkware.com>) で、バイナリ BIOS ファイルとフラッシュユーティリティを解凍します。Windows 環境であれば、Winzip (<http://www.winzip.com/>) が使用できます。
3. 解凍したファイルを起動用フロッピーディスクにコピーします。例えば、AX37DP102.BIN および AX37DP102.EXE です。
4. システムを DOS モードで再起動します。この際 EMM386 等のメモリ操作プログラムやデバイスドライバはロードしないようにしてください。約 520K の空きメモリ領域が必要です。
5. A:> AX37DP102 を実行すると、プログラムが自動処理します。
6. システムを再起動し、 キーを押して BIOS セットアップを起動します。

フラッシュ処理の際は表示がない限り、絶対に電源を切らないで下さい。

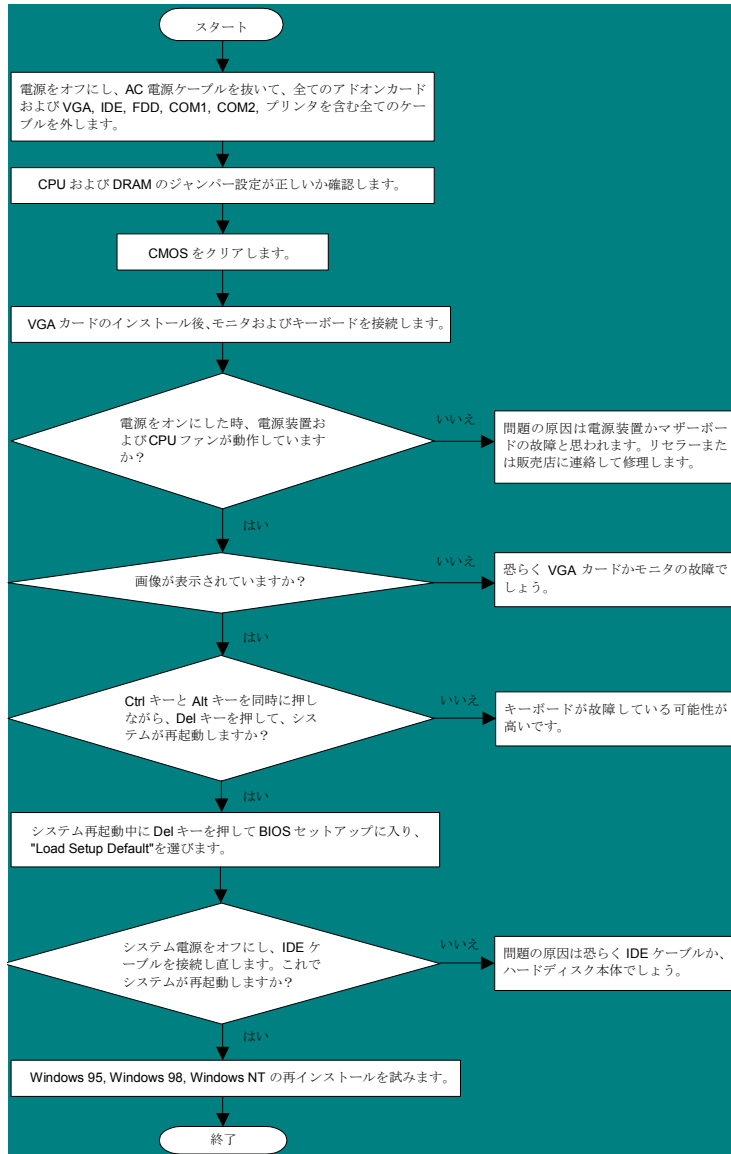
"Load Setup Defaults" を選び、"Save & Exit Setup (保存して終了)" します。これで OK です。

警告: フラッシュ時には以前の BIOS 内容は完全に置き換えられます。BIOS の設定および Win95/Win98 のプラファンドプレイ情報はクリアされるので、システムの再設定が必要となります。



トラブルシューティング

システム起動時にトラブルが生じた際は、以下の手順で問題を解決します。



パーツ番号およびシリアル番号

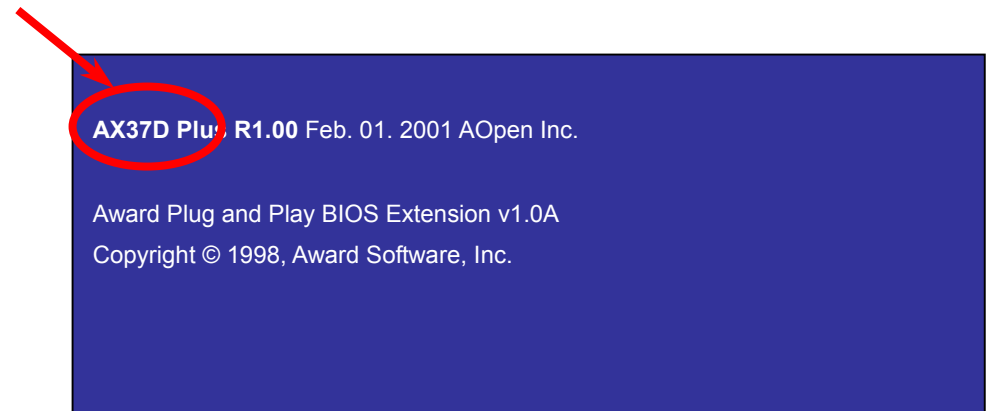
パーツ番号およびシリアル番号はバーコードラベルに印刷されています。ラベルは包装の外側、ISA/CPU スロットまたは PCB のコンポーネント側にあります。以下が一例です。



P/N: 91.88110.201 がパーツ番号で、S/N: 91949378KN73 がシリアル番号です。

型式名および BIOS バージョン

型式名および BIOS バージョンは最初の起動画面 (POST 画面)の左上に表示されます。以下が一例です。



AX37D Plusがマザーボードの型式名で、R1.00がBIOSバージョンです。



テクニカル サポート

お客様各位、

この度は AOpen 製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。お客様への最善かつ迅速なサービスが弊社の最優先するところでございます。しかしながら毎日いただく E メールおよび電話のお問合せが世界中から無数にあり、全ての方にタイムリーなサポートをご提供いたすのは困難を極めております。弊社にご連絡になる前に下記の手順で必要な解決法をご確認になることをお勧めいたします。皆様のご協力で、より多くのお客様に最善のサービスをご提供させていただけます。皆様のご理解に深く感謝いたします。

AOpen テクニカルサポートチーム一同

太平洋地域

AOpen Inc.

Tel: 886-2-2696-1333

Fax: 886-2-8691-2233

ヨーロッパ

AOpen Computer b.v.

Tel: 31-73-645-9516

Fax: 31-73-645-9604

中国

艾尔鹏国际上海(股)有限公司

Tel: 49-2102-157700

Fax: 49-2102-157799

ドイツ

AOpen Computer GmbH.

Tel: 49-2102-157700

Fax: 49-2102-157799

米国

AOpen America Inc.

Tel: 1-510-498-8928

Fax: 1-408-922-2935, 1-408-432-0496

ウェブサイト: www.aopen.com

E メール : 下記のご連絡フォームをご利用になりメールでご連絡ください。

英語 <http://www.aopen.com.tw/tech/contact/techusa.htm>

日本語 <http://aojp.aopen.com.tw/tech/contact/techjp.htm>

中国語 <http://w3.aopen.com.tw/tech/contact/techtw.htm>

ドイツ語 <http://www.aopencom.de/tech/contact/techde.htm>

フランス語 <http://aofr.aopen.com.tw/tech/contact/techfr.htm>

簡体字中国語 <http://www.aopen.com.cn/tech/contact/techcn.htm>

1

オンラインマニュアル: マニュアルをよくご覧になり、ジャンパー設定およびインストールの手順が正しいことをご確認ください。

<http://www.aopen.com.tw/tech/download/manual/default.htm>

2

テストレポート: PC 組立てには、互換性テストレポートから board/card/device の部分をご覧ください。

<http://www.aopen.com.tw/tech/report/default.htm>

3

FAQ: 最新の FAQ (よく尋ねられる質問)からトラブルの解決法が見つかるかもしれません。

<http://www.aopen.com.tw/tech/faq/default.htm>

4

ソフトウェアのダウンロード: 下表からアップデートされた最新の BIOS またはユーティリティ、ドライバをダウンロードしてみます。

<http://www.aopen.com.tw/tech/download/default.htm>

5

ニュースグループ: 発生したトラブルの解決法が、ニュースグループに掲載されたサポートエンジニアまたはシニアユーザーのポスティングから見つかるかもしれません。

<http://www.aopen.com.tw/tech/newsgrp/default.htm>

6

販売店、リセラーへのご連絡: 弊社は当社製品をリセラーおよびシステム設計会社を通して販売しております。ユーザーのシステム設定およびそのトラブルに対して先方が弊社より明るい可能性があります。また先方のユーザーへの対応の仕方が、次回に別の製品をお求めになる際の参考ともなるでしょう。

7

弊社へのご連絡: ご連絡に先立ち、システム設定の詳細情報およびエラー状況をご確認ください。パーツ番号、シリアル番号、BIOS バージョンも大変参考になります。